

農業DX推進事業について

【事業目的】消費動向やニーズに即した農産物生産に向け、データ解析による土壌改良やスマート技術導入等による作業環境の最適化を図るなど、新たな農業体制の構築による地域農業の持続性確保・農業所得向上を目指す

【事業期間】令和4年度～令和6年度

【目指す姿】各分野における分析データに基づき、様々な取組みを連動させる新たな環境を構築（全体最適化）

→ 「データ駆動型農業の実践」

岩見沢市農業DX推進会議 （産官学協定）

【構成団体】

- ・岩見沢市
- ・いわみざわ農業協同組合
- ・北海道大学 産学・地域協働推進機構

【目的】

岩見沢農業の持続的発展を目的に、産学官共創のもと農業DX「新しい いわみざわ農業」実現に向けた施策協議（大学の知財を加え次年度以降の施策に反映）

協力・助言

協力体制

協力機関・企業

- ・北海道大学大学院農学研究院
 - ・伊藤忠商事(株)
 - ・東日本電信電話(株)
 - ・(株)ナイルワークス
 - ・(株)エアロセンス
- 他

農業DX推進コンソーシアム（代表機関：いわみざわ地域・農業活性化連絡協議会）

● 構成団体

【農業団体】

- ・いわみざわ地域・農業活性化連絡協議会
- ・いわみざわ農業協同組合
- ・農業所得向上等協働促進協議会

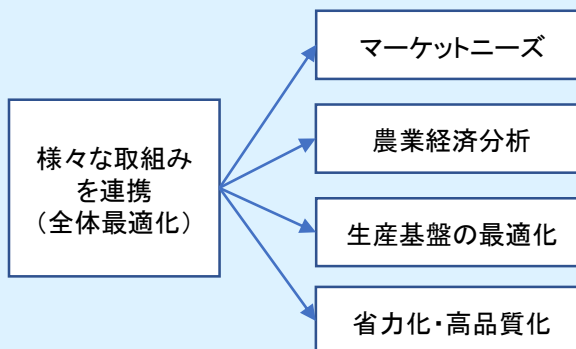
【行政機関】

- ・空知農業改良普及センター

【企業】

- ・進行管理役検討

● 事業連携イメージ



● 事業内容

＜マーケティング強化＞

- ・既存作物の販路開拓
- ・新規作物導入検討（空知型輪作含む）
- ・収益モデル作成

＜他事業との連動＞

- 生産費削減・土壌改善情報活用
- 作業スケジュール最適化機能活用

＜データ分析・活用＞

- ・土壌分析データ活用
- ・作業効率化（作業スケジュール最適化）
- ・生産費削減
 - スマート機器活用による労働費削減
 - 可変施肥による資材費削減
- ・センシングによる生育状況判断

＜生産基盤最適化＞

- ・堆肥投入効果の可視化
- ・残留化学肥料把握
- ・堆肥散布に係る費用積算
- ・堆肥投入に関するビジネスモデル創出
- ・地域内堆肥製造や堆肥確保検討